

【C年】

被献日

永遠にいます全能の神よ、この日、独りのみ子は、律法に従い神殿において献げられ、主の民の栄光、諸国民の光として迎えられました。どうかわたしたちも主にあつてみ前に献げられ、この世において主の栄光を現すことができまうに、主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン

司祭 「聖書のみ言葉を聞きましよう」

会衆は着席する。

旧約聖書

朗読者 「旧約聖書はマラキ書第三章一節から」

1 見よ、わたしは使者を送る。彼はわが前に道を備える。あなたがたが待望している主は突如、その聖所に来られる。あなたが喜びとしている契約の使者

2 見よ、彼が来る、と万軍の主は言われる。だが、彼の来る日に誰が身を支えうるか。彼の現れるとき、誰が耐えうるか。彼は精錬する者の火、洗う者の灰汁のようだ。

3 彼は精錬する者、銀を清める者として座し

レビの子らを清め

金や銀のように彼らの汚れを除く。彼らが主に献げ物を

正しくささげる者となるためである。

4 そのとき、ユダとエルサレムの献げ物は

遠い昔の日々に

過ぎ去った年月にそうであつたように

主にとつて好ましいものとなる。

朗読者 「旧約聖書を終わります」

詩編

腰掛けたままで、一節ずつ交互に唱えます。

第五十一編 十五節〜十九節

15 主よ、わたしの口を開いてください = わたしはあなたの誉れを告げ知らせる

16 あなたはいけにえを望まれず = 燔祭を献げても喜ば

れない

17 神よ、わたしの献げ物は砕かれた心＝ あなたは悔い

改める心を見捨てられない

18 主旨のままにシオンを恵みで潤し＝ エルサレムの

城壁を新たにしてください

19 そのとき、あなたは正しい献げ物を喜ばれ＝ わたし

たちはあなたの祭壇で仕えるようになる

### 使徒書

朗読者 「使徒書はヘブライ人への手紙 第二章十四節か

ら

14 ところで、子らは血と肉を備えているので、イエスもまた同様に、これらのものを備えられました。それは、死をつかさどる者、つまり悪魔を御自分の死によって滅ぼし、15 死の恐怖のために一生涯、奴隷の状態にあつた者たちを解放なさるためでした。16 確かに、イエスは天使たちを助けず、アブラハムの子孫を助けられるのです。17 それで、イエスは、神の御前において憐れみ深い、忠実な大祭司となつて、民の罪を償うために、すべての点で兄弟たちと同じようにならねばならなかったのです。18 事実、御自身、試練を受けて苦しめられたからこそ、試練を受けている人たちを助けることがおできになるのです。

朗読者 「使徒書を終わります」

一同立つ。

ここで聖歌を歌う。

### 福音書

司祭 「主は皆さんとともに」

会衆 「また、あなたとともに」

司祭 「聖ルカによる福音書第二章二十二節以下に記された主イエス・キリストの福音。主に栄光」

会衆 「主に栄光がありますように」

22 さて、モーセの律法に定められた彼らの清めの期間が過ぎたとき、両親はその子を主に献げるため、エルサレムに連れて行った。23 それは主の律法に、「初めて生まれる男子は皆、主のために聖別される」と書いてあるからである。24 また、主の律法に言われているとおり、山鳩一つがい、家鳩の雛二羽をいけにえとして献げるためであった。25 そのとき、エルサレムにシメオンという人がいた。この人は正しい人で信仰があつく、イスラエルの慰められるのを待ち望み、聖霊が彼にとどまっていた。26 そして、主が遣わ

すメシアに会うまでは決して死なない、とのお告げを聖霊から受けていた。27 シメオンが「霊」に導かれて神殿の境内に入ってから来たとき、両親は、幼子のために律法の規定どおりにいけにえを献げようとして、イエスを連れて来た。28

シメオンは幼子を腕に抱き、神をたたえて言った。

29 「主よ、今こそあなたは、お言葉どおり

この僕を安らかに去らせてくださいませ。

30 わたしはこの目でああなたの救いを見たからです。

31 これは万民のために整えてくださった救いで、

32 異邦人を照らす啓示の光、

あなたの民イスラエルの誉れです。」

33 父と母は、幼子についてこのように言われたことに驚いていた。

34 シメオンは彼らを祝福し、母親のマリアに言った。「御覧なさい。この子は、イスラエルの多くの人を倒したり立ち上がらせたりするために定められ、また、反対を受けるしるしとして定められています。35 ——あなた自身も

剣で心を刺し貫かれます——多くの人の心にある思いが

あらわにされるためです。」

36 また、アシエル族のファヌエルの娘で、アンナという

女預言者がいた。非常に年をとって、若いとき嫁いでから七年間夫と共に暮らしたが、37 夫に死に別れ、八十四歳

になつていた。彼女は神殿を離れず、断食したり祈ったりして、夜も昼も神に仕えていたが、38 そのとき、近づいて来て

神を賛美し、エルサレムの救いを待ち望んでいる人々皆に

幼子のことを話した。

39 親子は主の律法で定められたことをみな終えたので、自分たちの町であるガリラヤのナザレに帰った。40 幼子はたくましく育ち、知恵に満ち、神の恵みに包まれていた。

司祭  
司祭  
会衆  
「主に感謝」  
「主に感謝します」